校 長 室 だ よ り（No.3）

令和４年４月28日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

兵庫県では、阪神・淡路大震災から得た教訓や、こころ豊かな人づくり懇話会、心の教育緊急会議からの提言等を踏まえ、命を大切にする心や思いやりの心、規範意識を養うなど、「心の教育」の充実を図るため、兵庫型「体験教育」を推進しています。体験活動における試行錯誤の中で自己認識や自尊感情を高め、人間としての在り方や生き方を考えさせる機会としています。

小学校３年生の「環境体験事業」、５年生の「自然学校」、中学校の１年生の「わくわくオーケストラ教室」、２年生の「トライやる・ウィーク」など、子どもたちが「命の大切さ」や「生きる喜び」を実感できる体験教育を発達段階に応じて展開しています。

連休明けには、５年生で自然学校を計画しています。自然学校では、大きく分けて、５種類の体験ができるように計画しています。１つ目は、「自然体験」です。丹波少年自然の家での散策・グリーンテーリング（山沿いの植物観察を自然の家施設内で行うもの）などがこれにあたります。ふだんからよく知っている丹波（山）の自然ですが、草木の名前や葉の形、花弁の数となると大人でも不確かなものです。時間を使ってしっかりふれてほしいと思います。２つ目は、「文化体験」です。野外炊事などで道具を使ったり、マッチやライターなどを使わないで火をおこす体験をしたりすることです。海の水から塩を作る塩づくりを見学するなど、昔からの知恵や技術を学ぶこともあります。３つ目は、自然学校そのものですが、集団でのルールを守ったり班や学校の仲間で協力して活動したりするいわゆる「社会体験」です。この集団生活での学びは大きいものと考えます。中学校に向けて、他の学校とともにしっかり身に着けてほしいところです。４つ目は、「身体を使った体験」です。怪我や病気に気をつけて生活することや、カヌー・カヤック体験（円山川公苑）などがこれにあたります。自分の身体や艇を自分でコントロールする大切な体験です。最後が「心の体験」です。自然学校を通して、がまんをしたり、失敗して困ったり、成功して喜んだり、感動したりすることです。何よりこれを友達とともに体験することが大切だと思います。

今年度は、「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」は発表されていませんが、新型コロナウイルス感染症の罹患者は、昨年の同じ時期よりも大幅に増えていることから、丹波市では、５日間の実施ではあるものの宿泊は１泊のみとします。マスクを外す機会の多い「食事」「入浴」「就寝」での感染リスクを考えてのことです。

日程は、５月の１３日～１４日に丹波少年自然の家での１泊２日。１５日に県立円山川公苑でのカヌー、カヤック体験、１７日にスノーケルセンター、こども体験村での活動等を予定しています。また、学校独自のプログラムを６月７日に実施する予定です。

例年よりも泊数の少ない自然学校となりますが、春日地域の５年生にとって、充実した、思い出に残る自然学校にしたいと考えています。